

令和4年度 自己評価書

学校名	和歌山市立岡崎小学校
校長氏名	塩谷 通功
作成日	令和 5年 2月 13日

1 教育目標

強いからだと豊かな心を養い、自ら課題を求め、よりよく生きようとする子どもの育成				
	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	○全国学力学習状況調査及び県学習到達度調査において、特に「書く」領域での県平均値以上をめざす。 ○アンケート「子供にわかりやすい授業の工夫をしている」で、90%以上をめざす。	○保護者アンケート「いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる」で、保護者80%以上をめざす。 ○縦割りでの活動を、より増やしていく。	○毎日朝ごはんを食べてくる児童95%以上をめざす。 ○大休憩ランニングなど、体力の向上を図る取組を増やしていく。 ○設定を変えて、学期に一度は防災・避難訓練を行う。	○保護者アンケート「教育活動や子どもの様子を分かりやすく知らせている」で、85%以上をめざす。 ○ゲストティーチャー等、多くの方々に学校に来ていただき、地域に開かれた学校をめざす。
重点目標【P】	○思考力・判断力・表現力の育成 ○子どもを主体とした、授業づくり ○知識及び技能の習得 ○基本的生活習慣の定着 ○読書環境の整備	○道徳教育を柱とした教育活動の充実 ○人権意識を高め、自他共に大切に教育の実践 ○コロナ禍における仲間づくりの実践	○基本的生活習慣の定着 ○コロナ禍における体力向上の推進 ○安全教育の推進	○家庭・地域との連携を深める ○地域人材の活用や資源の活用を図る
取組の状況【D】	○全国学調では、「書く」領域で県平均をわずかに下回った。県の学習到達度調査でも、「書く」領域で県平均を下回った。 ○保護者アンケートで指標の項目で肯定的な肯定的な回答が82%にとどまった。 ○高学年で教科担任制を取り入れ、学習指導の効率化を図った。	○保護者アンケートで指標の項目で肯定的な回答が69%にとどまった。 ○道徳科の学習について、全クラスでオリエンテーションを行った。 ○道徳科の授業では、全ての教育活動と関連付けた「フォーカスデザイン」の考えのもと、効果的な授業をめざし、授業形態の工夫を行った。 ○コロナ禍において、学級を軸に学年内や交流学年を中心に交流し、仲間づくりに取り組んだ。	○毎学期生活リズム調べを行い、基本的生活習慣の定着を啓発した。 ○休み時間に縄跳びに取り組むとともに、なわとび記録会やチャレンジランニングを活用し意欲喚起を行った。 ○避難訓練は、学期ごとに想定を変えて実施した。 ○不審者対応訓練では、警察から講習も受けた。	○保護者アンケートで指標の項目で肯定的な回答は79%にとどまった。 ○学校便り・ホームページを活用し、子どもや学校の様子を伝えるようにした。 ○コロナ禍ではあったが、地域の団体・企業など資源の活用に少しずつ取り組み、多少コロナ前に戻すことができた。
取組の成果と課題（評価結果）【C】	○全国学調の理科では、全国平均を上回った。県学習到達度調査において、昨年度は、「書く」領域で県平均を上回ることができたが、今年度は下回った。「書く」領域における取り組みを今後見直す必要がある。 ○高学年の教科担任制の成果と課題については、少しずつ見えてきている。今後、検証結果について市教委等と協議し、支援策を要望していく必要がある。 ○学校図書館司書を配置いただけただことで、図書館の環境が劇的に変わった。	○道徳の授業における今年度の研究の方向性（フォーカスデザイン）や活動内容等（価値語）について、共通理解をはかり取り組んだ。 ○アンケートの「いじめをなくす学校・学級づくりに取り組んでいる」で、肯定的な回答が69%であった。取組が十分とは思えないが、さらに啓発が必要である。 ○コロナ禍で縦割り活動に十分取り組めなかったが、学年間の交流などこれまでより取り組みを進めることができた。	・毎日朝食を食べてきている児童が95%以上の目標値を達成し年間を通して安定していた。 ・最近では、ゲーム時間に加え、Youtube等の動画視聴に費やす時間が増えている傾向があり、家庭でも苦慮している様子が伺える。 ・体育における運動については、実施方法を工夫しながら実施し、少しずつ平常をとりもどしつつある。 ・休憩時間には、元気に外遊びをしている児童が多い。	○保護者アンケートでの回答が指標を下回る結果となった。保護者に学校の取り組みを理解してもらうため、周知の仕方の検討が必要である。 ○従来通りとまではいかないが、コロナ禍の中、地域の方々や図書ボランティアが学校に来てくださり、授業サポートをしていただけたことは、次年度につながると思う。
改善方法【A】	○若手教員の教師力向上を図るための授業研究や学級経営について学ぶ機会を設けるなど、学校全体で取り組みをさらに進める。 ○朝の読書タイムを継続しつつ、引き続き、学校図書館司書を配置いただき、読書環境の充実に努める。また、今後、図書ボランティアの協力を拡大して、文字に親しむ児童を増やせるよう、活動の充実を図る。	○道徳科の授業研究や道徳科とリンクした教育活動で学んだことを実生活に活かせる児童の育成に取り組んでいきたい。 ○学校アンケート結果をもとに、本校における児童の課題を再確認し、次年度の重点目標設定に活かしていく。 ○コロナ禍からWithコロナにおける縦割り等交流活動の在り方について、検討が必要である。	○少しずつ平常の体力づくりにシフトし、運動する大切さや楽しさを感じることができるようしていく。 ○生活リズム調べは、生活を見直すきっかけになると保護者からの声も多かったため、引き続き実施し、課題のある項目については、保護者に働きかけていく。 ○情報モラルについて、正しい知識と理解の定着に向け、道徳科とも連携し年間を通して計画的に取り入れていく。	○学校だよりや学年だよりの他、学校の取組を理解いただくため、HPの活用を考えたい。 ○地域交流等について、運営協議会委員の方々に協力をいただきながら少しずつ取り組みを再開しており、次年度はさらに活動を広げていきたい。 ○次年度は、本当の意味での「withコロナ」の社会が到来する。コロナ禍での成果と課題をふまえ、地域とともにある学校づくりをめざしていきたい。

3 その他の課題

○全体的には、児童は落ち着いて学校生活を送ることができている。しかしながら、不登校や家庭環境において気になる児童も少なからずいるため、こども総合支援センター等関係機関と連携しながら、丁寧に対応していきたい。

○3年間のコロナ禍での教育活動の成果と課題を踏まえて、学校、家庭、地域など関係機関と連携しながら、「withコロナ」社会で実施可能な取り組みを進めていく。

○ICT機器の整備が急速に進み、オンライン等を活用した学びの拡がりや可能性が見られたため、今後更なる研究が必要である。

○校区内での宅地造成が進んでおり今後更なる児童数増加が予想されるため、市教育委員会と連携し校舎建築等の校内の環境改善に向けた準備を進めていく必要がある。